

社会福祉法人 恒和永千会

令和元年度事業報告

昨年度から退職者が相次ぎ、職員の補充ができない状況の中で新年度を迎える。その職員数が影響し5月分の報酬が減算となる。これについては、各利用者の障害支援区分の平均値(4.9から5)が上がったことが大きな要因である。6月には男女1名ずつの採用に至り職員定数は解消できた。高齢の方の採用が増え、若手の職員には良い刺激となっている面もある。

利用者に目を移すと、和気の入所については変動もなく50名の利用ができています。しかしながら、利用者の重度化及び高齢化に伴い、判断能力に少しずつの衰えが出てきている事実もある。短期入所においては、利用が低調で、新規利用へ向けた発信に工夫が求められる。表町分場も利用者の変動は無く、ここ数年間、新規利用につながっていないのが現状で、この先の在り方について検討していくべき課題と言える。

社会福祉充実計画に示していた、女性トイレの改修が予定通り完了する。また食堂床及び壁面、利用者居室(男女2部屋)の改修も合わせて実施する。また老築を含め傷みを伴う個所は随時、修理・修繕を施し、メンテナンスに努めることができた。

運営面においては、報酬の減算にも関わらず、滞りなく進めることができた。その中で、毎年のことではあるが、事業費の使途に力を入れていく必要があるように感じる。

年間を通じ、予定をしていた行事や施設旅行等は、ほぼ実施できたといえる。しかし2月後半から新型コロナウイルスの影響で、短期入所の受け入れ、家族の帰宅、面会が出来なくなる状況となる。それが故に、利用者や家族に制約を課せることになったことが心苦しく、なお且つ、その状況がまだまだ続いているということである。

社会福祉法人 恒和永千会 障害者支援施設 ぼれぼれ

令和元年度 事業報告

本場(生活介護、施設入所支援、短期入所)

1. 活動内容・グループの再編成

(ア) 重度化、高齢化に伴う活動内容の見直し、グループ編成の再構築に努める。

身体障害及び加齢に伴う身体機能の低下が目に見えて進んだと感じる年度になりました。特に、身体障害や怪我による車イスの使用など、活動や移動に際して見守りや介助を必要とするご利用者様が増えました。これらの状況を鑑み、元気に参加できるご利用者様の活動を保証し、効果的な見守りや介助を行なうために、週案を使って職員配置や活動内容を組み立てながら実施しました。

(イ) 個々の実態に即した活動内容・環境を構築する。

『全体の個別化(ある程度の人数で構成された集団の中で個々の実態に即した活動を目指す)』を念頭に活動内容を工夫してきました。3階作業室では、主に高齢者と運動機能の低下が認められるご利用者様を対象に認知症予防活動(ペグ差し、造形模倣、塗り絵、はり絵など)と屋上ベランダを使った散歩を組み合わせた活動を考案し取り組みました。3階作業場までは、実態に応じてエレベーターを使用したり、職員が付き添って階段を上り下りしたりするなど移動には細心の注意を払いました。

施設外ウォーキングについては、職員の配置状況や通院対応、天候などによって左右されつつも、平均1回/週程度、実施することができました。状況に応じて、ぼれガーデンでの散歩、洗濯物の仕分けなどに切り替えて行ないました。

クラブ活動については、音楽クラブでは、平均1回/月のペースで行ないました。太鼓をたたいてリズムを取ったり、マイクを持って歌を歌ったりできる利用者が増えました。12月に『東備ふれあいの集い』に参加して舞台に立つ貴重な経験を得ることもできました。クッキングクラブでは、偶数月に約4回/月、食堂キッチンを使って調理を行ないました。自ら作った料理に舌鼓を打ち、作り上げた自信と満足感から「またやりたい!」と希望されるご利用者様が増えました。マラソンクラブでは、完走した方、途中棄権した方、参加できなかった方など結果は人それぞれでしたが、クラブのメンバーは土日の余暇時間を使って練習を積み重ねてきました。園芸クラブは、事務の協力を得て、水やり、収穫など他のクラブとは違うゆったりとした雰囲気と楽しさを味わうことができました。

乗馬療育については、身体機能の低下などのため参加できる利用者が減少したことを受け、4回/週から3回/週に回数を減らして実施しました。また、乗馬を希望するご利用者様の意向を汲んで複数回乗れるようにしました。また、乗り場を中心に点検、ヒヤリハットを行ない、安心・安全に参加できる環境作りに取り組みました。

2. 衛生面について

(ア) 誰から見られても清潔と感じられる居住空間にする。

1, 2階の居室(計4室)の改修工事が終わりました。生活感の漂う空間になりました。また、トイレの清掃実施表を作成して日々の清掃に取り組みました。各居室に関しては、布団が乱れたままになっていたり、ベッドの下にほこりが溜まっていたりするなど清掃が行き届いていないと思われることもありました。担当利用者の居室に限らず、目についたら整えることを指導していきます。

(イ) 消臭、害虫への配慮。

消臭については、男性トイレの便器からの匂いが抑えられず苦慮しています。小まめに清掃していきます。害虫については、確認時の情報を共有してきました。バルサン等の使用では、差し込み式の物を用意し実施しました。来年度も同様に実施したいと思います。

3. 職員の意識向上

(ア) 担当利用者への徹底した支援。

日々行っている支援の第一歩は『ご利用者を知ること』という基本を念頭に置き、個別支援計画書のモニタリング等の機会を通じて、担当利用者の実態把握と理解を目指しました。しかしながら、日々行っている支援が、ご利用者様への理解と自己実現につながったかという点においては不十分であったと考えます。従って、引き続き『ご利用者を知ること』を推し進めながら、アセスメント、行動特性の傾向、アプローチの手段などを中心に話し合いを重ねていきます。そして、ニーズの把握に基づく自己選択・自己決定の場を増やし、ご利用者様が快適な生活が送れるよう努めたいと思います。

(イ) 内・外研修を積み重ねていき、個々の支援力を養う足掛かりにする。

施設内研修として、外部講師(10/31岡崎幸友氏 当施設第三者委員 テーマ『不適切支援とは何か 不適切支援へのアプローチ』 12/11景山哲臣氏 当施設第三者委員 テーマ『サービスの向上に向けて…自分のために楽しく働こう』)をお招きし、ご講演をいただきました。また、人権擁護委員会より『不適切支援とは』、サービス向上委員会より『ヒヤリ・ハット』をテーマに研修を重ねました。

施設外研修として、岡山県知的障害者福祉協会の主催する研修会などを中心にほぼ全職員が外部研修に参加しました。

ただ、年間計画を立てて研修に取り組むという視点で振り返ったとき、それは不十分だったと言わざるを得ません。従って、次年度は、一つひとつの研修会で学んだことを自己のスキルとして蓄え、ご利用者様のQOL向上のためにフィードバックできるように内・外研修を計画し実行したいと思います。また、勤務年数に応じた研修など職員一人ひとりにスポットを当て、個々の支援力の底上げを目指したいと思います。

社会福祉法人 恒和永千会 障害者支援施設 ぽればれ

令和元年度 事業報告

表町分場(生活介護)

1. 活動内容の見直し

(ア) 活動内容を見直し、個々の実態に即した活動を提供する。

個々の実態に即した活動の提供に重点を置いて活動を行ないました。新しい活動(結びおり、沙織織など)を模索しましたが、今取り組んでいる、あるいは今まで取り組んできたことを続けていくことへのこだわりが強く、新しい活動への移行はうまく進みませんでした。しかしながら、個人の興味・関心に基づく創作意欲はとても強く、はり絵の作品が「第3回きらぼしアート展」に出展される機会を得るなど、継続的な創作活動が続けることによって作品の出来栄もかなり秀でたレベルに到達しています。また、作品を支援学校の文化祭に持ち込んで展示し、多数の方に見ていただく機会も設けました。来年度も作品作りを通じて自己表現と自己実現ができる機会を模索していきます。

(イ) 定期的買い物学習を取り入れる。

めぐりんバスなど公共交通機関を利用して買い物や外出を行ないました。買うものを事前に決めてお店に行ったり、自分の好きな物を選んで買い物かごに入れたりすることで生活者としての実感を味わうことができました。

2. 家族との関係性

(ア) 年4回の行事を行ない、家族と交流を図る。

お花見会(4月)、焼肉会(9月)、忘年会(12月)、茶話会(2月)を計画し実施しました。残念ながら、家族の皆さんが全員そろうことはありませんでした。行事の内容や回数を再検討します。